

2016年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2015年10月22日

上場会社名 株式会社エー・ディー・ワークス 上場取引所 東
 コード番号 3250 URL <http://www.re-adworks.com/>
 代表者 (役職名)代表取締役社長CEO (氏名)田中 秀夫
 問合せ先責任者 (役職名)常務取締役CFO (氏名)細谷 佳津年 (TEL) 03(4500)4200
 四半期報告書提出予定日 2015年11月12日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家・アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

1. 2016年3月期第2四半期の連結業績 (2015年4月1日～2015年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

| | 売上高 | | 営業利益 | | 経常利益 | | 親会社株主に帰属する四半期純利益 | |
|---------------|-------|-------|------|-------|------|-------|------------------|-------|
| | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % |
| 2016年3月期第2四半期 | 7,882 | 71.2 | 505 | 65.2 | 411 | 86.2 | 263 | 94.1 |
| 2015年3月期第2四半期 | 4,603 | △30.5 | 305 | △37.1 | 220 | △44.9 | 135 | △43.9 |

(注) 包括利益 2016年3月期第2四半期 263百万円 (102.4%) 2015年3月期第2四半期 129百万円 (△46.3%)

| | 1株当たり 四半期純利益 | 潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益 |
|---------------|-----------------|----------------------------|
| | 円 銭 | 円 銭 |
| 2016年3月期第2四半期 | 1.23 | 1.22 |
| 2015年3月期第2四半期 | 0.62 | 0.62 |

(2) 連結財政状態

| | 総資産 | 純資産 | 自己資本比率 |
|---------------|--------|-------|--------|
| | 百万円 | 百万円 | % |
| 2016年3月期第2四半期 | 15,844 | 5,697 | 35.9 |
| 2015年3月期 | 16,681 | 5,478 | 32.8 |

(参考) 自己資本 2016年3月期第2四半期 5,691百万円 2015年3月期 5,471百万円

2. 配当の状況

| | 年間配当金 | | | | |
|--------------|--------|--------|--------|------|------|
| | 第1四半期末 | 第2四半期末 | 第3四半期末 | 期末 | 合計 |
| | 円 銭 | 円 銭 | 円 銭 | 円 銭 | 円 銭 |
| 2015年3月期 | — | 0.00 | — | 0.35 | 0.35 |
| 2016年3月期 | — | 0.00 | | | |
| 2016年3月期(予想) | | | — | 0.35 | 0.35 |

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2016年3月期の連結業績計画について

当社グループでは、当連結会計年度の経営目標を「業績計画」として開示しております。「業績計画」は経営として目指すターゲットであり、いわゆる確度の高い情報等をもとに合理的に算出された「業績の予測値」または「業績の見通し」とは異なるものであります。

(%表示は、対前期増減率)

| | 売上高 | | 経常利益 | |
|----|--------|------|------|------|
| | 百万円 | % | 百万円 | % |
| 通期 | 12,400 | 15.5 | 600 | 11.0 |

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動
(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無

新規 社(社名) 、除外 社(社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

| | | | | |
|---------------------|------------|--------------|------------|--------------|
| ① 期末発行済株式数(自己株式を含む) | 2016年3月期2Q | 223,876,000株 | 2015年3月期 | 223,876,000株 |
| ② 期末自己株式数 | 2016年3月期2Q | 9,696,638株 | 2015年3月期 | 10,625,100株 |
| ③ 期中平均株式数(四半期累計) | 2016年3月期2Q | 214,041,190株 | 2015年3月期2Q | 217,696,157株 |

(注) 当社は、株式付与ESOP信託(2013年5月15日付)及び役員株式報酬信託(2014年7月16日付)を導入しており、これら信託が所有する当社株式は、自己株式に含めて記載しております。

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、四半期連結財務諸表に対するレビュー手続は終了していません。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている将来に関する記述は、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

| | |
|------------------------------|----|
| 1. 当四半期決算に関する定性的情報 | 2 |
| (1) 経営成績に関する説明 | 2 |
| (2) 財政状態に関する説明 | 3 |
| (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 | 4 |
| 2. サマリー情報(注記事項)に関する事項 | 5 |
| (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 | 5 |
| (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 | 5 |
| (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示 | 5 |
| 3. 四半期連結財務諸表 | 6 |
| (1) 四半期連結貸借対照表 | 6 |
| (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 | 7 |
| (3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書 | 9 |
| (4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 | 10 |
| (継続企業の前提に関する注記) | 10 |
| (株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) | 10 |
| (セグメント情報等) | 10 |
| (重要な後発事象) | 11 |

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間における国内経済は、政府や日銀の経済・金融政策を背景に、企業収益や雇用・所得環境の改善が進むほか、企業の設備投資意欲も引き続き旺盛である一方、長期化する中国経済の減速懸念やアジア新興国での成長鈍化、欧州経済の不安要素などの海外経済の減速による下振れリスクが依然としてあるなど、景気は不透明感を拭えない状況で推移しております。

当社グループを取り巻く経営環境におきましては、東京圏の地価上昇の動きを背景に、賃貸市場、売買市場ともに活況を呈しており、また収益不動産市場におきましても、個人富裕層を中心とした旺盛な購入需要に支えられ、良好な状況が継続いたしました。

このような事業環境のもと、当社グループは「第4次中期経営計画(2015年3月期～2017年3月期)」に基づき、「事業規模の拡大と収益基盤の安定化」と「ADビジネスモデルによるクローズド・マーケットの創造」を基本方針に掲げ、各種施策に取り組んでまいりました。

当第2四半期連結累計期間におきましては、上述の中期経営計画の方針に則し、国内外ともに仕入活動に取り組む一方、収益不動産の販売を積極的に進めた結果、前第2四半期連結累計期間と比べ、大幅な増収増益となりました。

また、2014年1月に発足したオーナーズクラブ「Royaltorch」を軸に、当社販売物件のオーナーである顧客(主に個人の富裕層)のニーズに、よりきめ細やかに対応し、かつ、より上質なサービスの提供に努めるなどクライアントリレーション機能の強化に取り組んでまいりました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間における売上高は7,882百万円(前年同期比71.2%増)、EBITDA532百万円(前年同期比65.9%増)、営業利益は505百万円(前年同期比65.2%増)、経常利益411百万円(前年同期比86.2%増)、親会社株主に帰属する四半期純利益263百万円(前年同期比94.1%増)となりました。

なお、2016年3月期第1四半期連結累計期間より、「企業結合に関する会計基準」(企業会計基準第21号平成25年9月13日)等を適用し、「四半期純利益」を「親会社株主に帰属する四半期純利益」としております。

事業の概況は次のとおりです。

(収益不動産販売事業)

当事業セグメントにおきましては、期初に掲げた経営計画に基づき、積極的に収益不動産の販売を進めてまいりました。その結果、国内外を合わせて18棟(前年同期比4棟増)の販売を手掛けております。

また、物件価格の上昇基調が続くなど仕入れ環境は厳しさを増すものの、中でも優良物件を慎重に厳選し、前年同期に比べ34.4%増の4,762百万円(国内/米国含む)の収益不動産の仕入れを行っており、当第2四半期連結累計期間の収益不動産の平均残高は12,949百万円(前年同期比21.0%増)まで拡充いたしました。

以上の結果、当事業の売上高は7,141百万円(前年同期比80.1%増)、EBITDA774百万円(前年同期比62.7%増)、営業利益は773百万円(前年同期比62.8%増)となりました。

(ストック型フィービジネス)

当事業セグメントにおきましては、引き続き収益不動産残高の積み上げが進み、当第2四半期連結累計期間においては408百万円(前年同期比26.7%増)の賃料収入を確保することができ、利益への寄与度が高まっております。また、販売後の収益不動産に対するプロパティ・マネジメントの受託も順調に推移し、収益不動産管理戸数は3,377戸(2015年9月末現在)となりました。

一方、長期保有収益不動産の積み増しを進めたことによる減価償却額の増加や、当事業を担う組織の再編に伴った人件費の増加などが主な要因となり、一時的に、当事業に係る費用負担が増加いたしました。

以上の結果、当事業の売上高は813百万円(前年同期比22.0%増)、EBITDA297百万円(前年同期比13.1%増)、営業利益は281百万円(前年同期比9.1%増)となりました。

(注) 1. 各セグメントの営業利益は、配賦不能営業費用及びセグメント間の内部取引による営業費用控除前の数値であり、その合計は連結営業利益と一致しておりません。

2. 前期まで(その他)として開示しておりました、新築戸建事業を担う(株)エー・ディー・エステートの費用は本社費用に含めております。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当第2四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末と比較して837百万円減少し、15,844百万円となりました。これは、たな卸資産が502百万円減少したこと、借入金の返済等により現金及び預金が280百万円減少したことなどが主な要因であります。

(負債)

当第2四半期連結会計期間末における負債は、前連結会計年度末と比較して1,055百万円減少し、10,146百万円となりました。これは、有利子負債が979百万円減少したことなどが主な要因であります。

(純資産)

当第2四半期連結会計期間末における純資産は、前連結会計年度末と比較して218百万円増加し、5,697百万円となりました。これは、親会社株主に帰属する四半期純利益263百万円を計上したことなどが主な要因であります。

キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物（以下、資金という）は、前連結会計年度より283百万円減少し、2,730百万円となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間において営業活動の結果得られた資金は、797百万円となりました。これは、税金等調整前四半期純利益を411百万円を計上したこと、たな卸資産が493百万円減少したことなどが主な要因であります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間において投資活動の結果使用した資金は、23百万円となりました。これは、固定資産の取得による支出24百万円があったことが主な要因であります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間において財務活動の結果使用した資金は、1,057百万円となりました。これは、有利子負債が979百万円減少したことなどが主な要因であります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当社グループでは、前期より、1(1)に記載の「第4次中期経営計画」の基本方針に基づき、以下の4つの施策を重点的に取り組んでまいります。

- I. 収益不動産の積み増し
- II. 収益安定化モデルへの転換
- III. オーナー（顧客）への高付加価値の提供と長期取引による低コスト化の実現
- IV. 不動産業界におけるユニークなポジショニングの確立

当第2四半期連結累計期間においては、当期連結業績計画に対し、売上高63.6%、EBITDA56.7%、経常利益68.5%の進捗率であり、順調なペースで推移しているものと認識しております。

以上により、2015年3月9日に公表いたしました2016年3月期の連結業績計画に変更はありません。

なお、当第2四半期連結累計期間までの業績計画に対する当社取締役会における自己評価及び認識している課題等につきまして、2015年11月11日開催予定の当社IR説明会においてご説明申し上げ、また、同日付で、同説明会で使用する資料を当社HP (<http://www.re-adworks.com>) に掲載する予定です。

(2016年3月期連結業績計画)

(単位：百万円)

| | 2015年3月期（実績） | 2016年3月期（計画） |
|-----------|--------------|--------------|
| 連結売上高 | 10,735 | 12,400 |
| 連結EBITDA | 791 | 935 |
| 連結経常利益 | 540 | 600 |
| 連結ROE（期末） | 6.1% | 6.4% |

当社が公表する「業績計画」は経営として目指すターゲットであり、いわゆる確度の高い情報などを基に合理的に算出された「業績の予想値」または「業績の見通し」とは異なるものです。また、本業績計画とは別に、当社ではその時点におけるグループ全体の確度の高い情報及び合理的であると判断される情報を基に、四半期ごとの進捗の見通しを「フォーキャスト」として適時更新し開示しております。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

税金費用については、当第2四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積もり、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法によっております。

なお、法人税等調整額は、法人税、住民税及び事業税に含めて表示しております。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

「企業結合に関する会計基準」(企業会計基準第21号 平成25年9月13日)、「連結財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第22号 平成25年9月13日)及び「事業分離等に関する会計基準」(企業会計基準第7号 平成25年9月13日)等を第1四半期連結会計期間から適用し、四半期純利益等の表示の変更を行っております。当該表示の変更を反映させるため、前第2四半期連結累計期間及び前連結会計年度については、四半期連結財務諸表及び連結財務諸表の組替えを行っております。

3. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

| | 前連結会計年度 (2015年3月31日) | 当第2四半期連結会計期間 (2015年9月30日) |
|---------------|-------------------------|------------------------------|
| 資産の部 | | |
| 流動資産 | | |
| 現金及び預金 | 3,081,935 | 2,801,299 |
| 売掛金 | 73,259 | 67,939 |
| 販売用不動産 | 10,975,508 | 10,365,265 |
| 仕掛販売用不動産 | 77,017 | 184,495 |
| その他 | 300,036 | 268,778 |
| 貸倒引当金 | △2,223 | △941 |
| 流動資産合計 | 14,505,534 | 13,686,836 |
| 固定資産 | | |
| 有形固定資産 | | |
| 土地 | 1,239,470 | 1,239,617 |
| その他(純額) | 715,499 | 703,932 |
| 有形固定資産合計 | 1,954,970 | 1,943,549 |
| 無形固定資産 | 61,095 | 60,708 |
| 投資その他の資産 | 159,669 | 153,142 |
| 固定資産合計 | 2,175,735 | 2,157,401 |
| 資産合計 | 16,681,270 | 15,844,238 |
| 負債の部 | | |
| 流動負債 | | |
| 買掛金 | 450,352 | 333,209 |
| 短期借入金 | 3,921,703 | 1,681,818 |
| 1年内償還予定の社債 | 139,500 | 129,500 |
| 1年内返済予定の長期借入金 | 999,369 | 1,099,465 |
| 未払法人税等 | 157,174 | 145,944 |
| 引当金 | 17,463 | 144,049 |
| その他 | 864,367 | 791,051 |
| 流動負債合計 | 6,549,930 | 4,325,037 |
| 固定負債 | | |
| 社債 | 967,250 | 902,500 |
| 長期借入金 | 3,601,167 | 4,835,916 |
| その他 | 84,018 | 83,040 |
| 固定負債合計 | 4,652,435 | 5,821,457 |
| 負債合計 | 11,202,366 | 10,146,494 |
| 純資産の部 | | |
| 株主資本 | | |
| 資本金 | 1,937,744 | 1,937,744 |
| 資本剰余金 | 1,885,962 | 1,886,483 |
| 利益剰余金 | 2,108,105 | 2,293,647 |
| 自己株式 | △457,977 | △423,392 |
| 株主資本合計 | 5,473,834 | 5,694,482 |
| その他の包括利益累計額 | | |
| 為替換算調整勘定 | 3,557 | 2,194 |
| 繰延ヘッジ損益 | △6,318 | △5,310 |
| その他の包括利益累計額合計 | △2,761 | △3,115 |
| 新株予約権 | 7,830 | 6,376 |
| 純資産合計 | 5,478,903 | 5,697,744 |
| 負債純資産合計 | 16,681,270 | 15,844,238 |

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

| | 前第2四半期連結累計期間 (自 2014年4月1日 至 2014年9月30日) | 当第2四半期連結累計期間 (自 2015年4月1日 至 2015年9月30日) |
|------------------|---|---|
| 売上高 | 4,603,146 | 7,882,625 |
| 売上原価 | 3,501,791 | 6,276,059 |
| 売上総利益 | 1,101,354 | 1,606,566 |
| 販売費及び一般管理費 | 795,459 | 1,101,162 |
| 営業利益 | 305,895 | 505,403 |
| 営業外収益 | | |
| 受取利息及び配当金 | 381 | 265 |
| 還付加算金 | 239 | 14 |
| 助成金収入 | - | 942 |
| 為替差益 | 447 | - |
| その他 | - | 45 |
| 営業外収益合計 | 1,068 | 1,268 |
| 営業外費用 | | |
| 支払利息 | 71,328 | 81,189 |
| その他 | 14,792 | 14,255 |
| 営業外費用合計 | 86,120 | 95,445 |
| 経常利益 | 220,843 | 411,226 |
| 特別損失 | | |
| 固定資産除却損 | 66 | - |
| 特別損失合計 | 66 | - |
| 税金等調整前四半期純利益 | 220,776 | 411,226 |
| 法人税、住民税及び事業税 | 85,017 | 147,786 |
| 法人税等合計 | 85,017 | 147,786 |
| 四半期純利益 | 135,758 | 263,440 |
| 親会社株主に帰属する四半期純利益 | 135,758 | 263,440 |

四半期連結包括利益計算書
第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

| | 前第2四半期連結累計期間 (自 2014年4月1日 至 2014年9月30日) | 当第2四半期連結累計期間 (自 2015年4月1日 至 2015年9月30日) |
|-----------------|---|---|
| 四半期純利益 | 135,758 | 263,440 |
| その他の包括利益 | | |
| 為替換算調整勘定 | 1,326 | △1,362 |
| 繰延ヘッジ損益 | △7,098 | 1,007 |
| その他の包括利益合計 | △5,771 | △354 |
| 四半期包括利益 | 129,987 | 263,085 |
| (内訳) | | |
| 親会社株主に係る四半期包括利益 | 129,987 | 263,085 |
| 非支配株主に係る四半期包括利益 | — | — |

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

| | (単位：千円) | |
|-------------------------|---|---|
| | 前第2四半期連結累計期間 (自 2014年4月1日 至 2014年9月30日) | 当第2四半期連結累計期間 (自 2015年4月1日 至 2015年9月30日) |
| 営業活動によるキャッシュ・フロー | | |
| 税金等調整前四半期純利益 | 220,776 | 411,226 |
| 減価償却費 | 14,175 | 26,716 |
| 引当金の増減額 (△は減少) | 22,698 | 125,303 |
| 受取利息及び受取配当金 | △381 | △265 |
| 支払利息 | 71,328 | 81,189 |
| 有形固定資産除却損 | 66 | — |
| 売上債権の増減額 (△は増加) | △88 | 5,218 |
| 仕入債務の増減額 (△は減少) | △190,968 | △116,997 |
| たな卸資産の増減額 (△は増加) | △1,014,144 | 493,850 |
| その他 | △4,358 | 12,729 |
| 小計 | △880,896 | 1,038,971 |
| 利息及び配当金の受取額 | 381 | 265 |
| 利息の支払額 | △65,598 | △78,784 |
| 法人税等の支払額又は還付額 (△は支払) | △73,686 | △163,372 |
| 営業活動によるキャッシュ・フロー | △1,019,800 | 797,081 |
| 投資活動によるキャッシュ・フロー | | |
| 有形固定資産の取得による支出 | △35,680 | △10,554 |
| 無形固定資産の取得による支出 | △5,370 | △14,001 |
| 敷金の差入による支出 | △936 | — |
| その他 | — | 583 |
| 投資活動によるキャッシュ・フロー | △41,986 | △23,971 |
| 財務活動によるキャッシュ・フロー | | |
| 短期借入れによる収入 | 3,510,000 | 1,559,000 |
| 短期借入金の返済による支出 | △2,816,450 | △3,798,885 |
| 長期借入れによる収入 | 908,763 | 2,614,000 |
| 長期借入金の返済による支出 | △576,396 | △1,278,852 |
| 社債の償還による支出 | △64,750 | △74,750 |
| 自己株式の取得による支出 | △299,998 | — |
| 新株予約権の発行による収入 | 3,333 | — |
| ストックオプションの行使による収入 | 3,292 | 1,643 |
| 配当金の支払額 | △76,900 | △77,323 |
| その他 | △3,245 | △2,510 |
| 財務活動によるキャッシュ・フロー | 587,647 | △1,057,677 |
| 現金及び現金同等物に係る換算差額 | 12,598 | 1,421 |
| 現金及び現金同等物の増減額 (△は減少) | △461,541 | △283,146 |
| 現金及び現金同等物の期首残高 | 3,551,882 | 3,013,451 |
| 現金及び現金同等物の四半期末残高 | 3,090,341 | 2,730,305 |

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

I 前第2四半期連結累計期間(自2014年4月1日至2014年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高、利益の金額に関する情報

(単位:千円)

| | 報告セグメント | | | その他 (注) | 合計 |
|-----------------------|---------------|------------------|-----------|------------|-----------|
| | 収益不動産 販売事業 | ストック型フ ィービジネス | 小計 | | |
| 売上高 | | | | | |
| 外部顧客への売上高 | 3,964,631 | 595,813 | 4,560,444 | 42,701 | 4,603,146 |
| セグメント間の内部売上高 又は振替高 | — | 70,695 | 70,695 | — | 70,695 |
| 計 | 3,964,631 | 666,508 | 4,631,140 | 42,701 | 4,673,841 |
| セグメント利益又は損失(△) | 475,124 | 258,090 | 733,215 | △2,434 | 730,781 |

(注)「その他」には、総合居住用不動産事業(新築戸建)などが含まれております。

2. 報告セグメントの利益の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:千円)

| 利益 | 金額 |
|-----------------|----------|
| 報告セグメント計 | 733,215 |
| 「その他」の区分の利益 | △2,434 |
| セグメント間取引消去 | 10,758 |
| 全社費用(注) | △435,643 |
| 四半期連結損益計算書の営業利益 | 305,895 |

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

II 当第2四半期連結累計期間(自 2015年4月1日 至 2015年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高、利益の金額に関する情報

(単位：千円)

| | 報告セグメント | | |
|-----------------------|---------------|------------------|-----------|
| | 収益不動産 販売事業 | ストック型 フィービジネス | 計 |
| 売上高 | | | |
| 外部顧客への売上高 | 7,141,932 | 740,560 | 7,882,493 |
| セグメント間の内部売上高 又は振替高 | — | 72,728 | 72,728 |
| 計 | 7,141,932 | 813,288 | 7,955,221 |
| セグメント利益 | 773,424 | 281,676 | 1,055,100 |

(注) 従来、「その他」に含めておりました総合居住用不動産事業(新築戸建)につきましては、前連結会計年度において保有する全物件の販売が完了し事業を縮小した結果、その重要性が低下したため、第1四半期連結会計期間よりセグメント情報の記載を省略しております。

2. 報告セグメントの利益の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位：千円)

| 利益 | 金額 |
|-----------------|-----------|
| 報告セグメント計 | 1,055,100 |
| セグメント間取引消去 | 14,428 |
| 全社費用(注) | △564,124 |
| 四半期連結損益計算書の営業利益 | 505,403 |

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。